

合併の影響や市からの施設譲渡などによる問題点が明らかに 市社会福祉協議会と市議会厚生常任委員会が懇談会開催



市議会厚生常任委員会と上越市社会福祉協議会との懇談会が21日、市役所でありました。これは上越市社会福祉協議会からの申し入れにより実現したものです。大竹敏一事務局長から社

会福祉協議会の現状と課題について報告があった後、意見交換が行われました。

上越市社会福祉協議会は、上越地域14市町村の合併に伴い、平成16年12月28日に誕生した組織で、**上越市の地域福祉推進の中核的な存在**となつていきます。しかし、合併後9年目を迎えるなかで、国や市の厳しい財政状況が反映して、運営財源にも影響が出てきています。大竹事務局長の報告では、介護保険等サービス事業からの繰り入れで地域福祉活動を行っている状況だということでした。そして、今後予定されている交付金の減額や介護保険制度の見直しによって、いっそう厳しい運営を強いられる見通しと見えます。市社会福祉協議会では職員の減員、組織体制へのブロック制の導入などに取り組んでいるものの、市からの支援が欠かせない

と訴えていました。

意見交換の中で、厚生常任委員からは、「これまで市所有だったデイサービスなどの介護施設が市から社協に譲渡された。今度、社協が施設を所有して経営して行くとなると、減価償却費などがかかってくる。これまで指定管理者として運営してきたなかで、デイサービスなどの収入が財政面でどれだけ貢献してきたか」「地域福祉の事業は、社協のみなさんだけではなく、市も自ら取り組んでいかなければならない事業がある。市の行政とつき合わせをしているのか」「施設の譲渡が終わっている段階に来て、維持修繕費がかかる、土地代金などが社協持ちになり、財政が厳しいという声が出るのは残念だ。しっかりと今後の方向性を示してほしい」などの声が出ていました。

これに対して市社会福祉協議会の幹部からは、「いただいた意見についてはこれから私たちも協議していきたいと思つている」「いまさら、維持管理費や土地代金のことなどを言いだされてもとの声があつたが、（介護施設の）譲渡の際、市長にも陳情したし、いろんなところに何とかしてほしいと訴えてきて、今日に至つている」「いま本当に必要とされている地域サービスを担っていると思つているので、それらは継続しなければならぬ」などの回答がありました。

今回の意見交換では、合併によって、財政運営面にマイナスの影響が出ている点や市からの施設譲渡の矛盾も見えました。また、今後、介護保険制度の見直し、改悪が社会福祉協議会の運営にも大きな影響が出る事が明らかにされました。この点、成果だつたと思いません。しか

し、双方のやり取りがなかなかかみ合っていないのは残念なことでした。

上越安塚柏崎線吉川区上川谷地内で道路決壊、交通止め

大雨で市内でも被害が発生してしまふ。20日、県道上越安塚柏崎線で道路が決壊し、通行止めになりました。



20日の夕方、吉川区総合事務所説明を受けてから現場に飛びました。上川谷の宮川町内会長さんによると、崩れ落ちるときはすごい音がして、隣の家の人と見に行つたそうです。

現場の状況ですが、沢を流れ落ちてきた大量の水が排水管だけでは間に合わなくなり、道路を越え、路床を削り取つたようです。この決壊で舗装された路面は浮いた形になりました。

災害復旧工事が終わるまで大島区板山と吉川区上川谷の間は通れなくなりまふ。地元の人たちは遅くとも冬が来るまでには復旧させてほしいと言つていました。新潟県には急いで工事着手してもらいたいものです。



【オトコエシ】漢字で「男郎花」と書きます。オミナエシ科の多年草です。花は白、黄色いオミナエシほど注目されていませんが、こちらもけっこう目立ちます。写真は吉川区尾神にて撮影。

ずっと前から気にしていたことがありました。「今度、ヒマを見て一緒に出かけ、楽しくやりましょう」という言葉を交わしながら、その人たちとこの五年間、一度も一緒に出かけたことがなかったからです。

言葉を変えた相手は次男の連れ合いの両親です。初めて会ったのは大潟区のある料理屋さん、そこで次男と交際相手との「結納」の儀式があり、酒を交わしました。その際、相手方の両親とはすっかり打ち解け、「山騒ぎ」、温泉入浴など共通の楽しみがあることを知りました。正直言って、翌日、一緒に山へ出かけても不思議でないくらいの盛り上がりようだったのです。

それが一体どうしたというのでしょうか、私がバタバタして常に忙しそうに見えるてしまったのかも知れませんが、お盆とか正月に挨拶で会うだけで、一緒に出かけるということはまったくありませんでした。そして、私自身も最初に会った時の言葉をすっかり忘れてしまいました。

五年前の言葉を思い出さすきっかけになったのは、お盆に帰省した次男の一言、「何か気まずい雰囲気になったんだってね」でした。

次男が帰省する前日だったと思います。私は盆礼で直江津にある次男の連れ合いの実家を訪問していました。そのとき、お母さんと一緒にお茶を飲んだのですが、あまり、話はずみませんでした。話の中で、次男夫婦の帰省の日を私には知らせてなかったのに、直江津の両親には伝えてあったことが明らかにされた場面があったのですが、お母さんはそのことが気になっていたので、お盆に帰省した翌日という急な日程ではありましたが、実現しました。

さて、当日です。直江津の両親の近くの料理屋さんで六人がそろったのは午後七時過ぎでした。最初、大きな四角いテーブルの両サイドに私たち夫婦と次男、直江津の夫婦と次男の連れ合いが対面式に座ったので、「これじゃ、見合いだね」と言うのと、次男夫婦が移動しました。それから、やわらかな雰囲気になりました。

ビールとジュースなどで乾杯。その後は次男夫婦が予約しておいてくれた刺身、焼き肉などの料理を堪能しました。直江津のお父さんは私と同じビール党です。中ジョッキで三杯までいった時、私の方は二杯でしたから、私よりもいける方なのかも知れません。その次は一杯だけ注文して、二人で仲良く分けました。二つのコップに分けたのは私です。泡が落ち着くと見事に二等分されていて、「おーっ」という声が聞こえてきました。

ビールなどをいただくながらの約二時間、お互いに話をしてみてもびっくりすることばかりでした。直江津のお父さんは職人さんです。お得意さんである家が私の友人の家であったり、会社で一緒に仕事をしている人が、わが家の親せき筋の人だったり……。何回、「えーっ」という言葉を発したのか。世間は狭いと感じました。また、私の名前の入った看板がどこにあるかをすっかり覚えていたのにも驚きました。二時間ほどの付き合いで、家族間の距離がぐんと短くなりました。

専敬寺で「盛之助日記」を語る



お盆の15日、安塚区の専敬寺で行われた「暁天講座」で、現在の大島区竹平で生まれ育ち、活躍した内山盛之助（故人）について話をさせていただきました。

私は議場や学校の教室などで話をしたことはありますが、お寺のお堂で話をするのは今回が初めてでした。会場を見渡したら、郷土史に詳しい人はいるし、古文書をしっかりと読める人もいます。地元新聞で講座を知り、「おまんが政治以外の話をするのを見てみたいとやってきた」という人もいました。すっかり緊張してしまいました。

私の話のテーマは「盛之助日記から見えるもの」。このレポートでも紹介した竹平の「いんきよ」（屋号）の盛之助という人の日記がどんなものか、1883年（明治16）3月12日の尾神嶽殉難事故が日記

ではどんなふうにかかれていたかなどを約40分、語りました。

このなかで、「殉難事故に関係するケヤキの大持引（だいもちひき。切り倒した木をソリに載せて運ぶ仕事）についての記述は3月7日からであり、その前には無いことなどから大ケヤキは川谷で切り倒したことがいっそう明らかになったのではないか」とのべるとともに、日記からは農作業や地域での暮らしで「助け合い」が盛んに行われていたことなどを明らかにしました。また、歴史のつながりがあり、先祖への感謝を忘れてはならないとも語りました。

私の話は素人の話ですが、明治10年から35年間も続けて書いた内山盛之助の日記に対し、いままで以上に興味を持っていただけたのではないかと思います。これからももっと勉強して、さらに詳しく盛之助のことを伝えていこうと思います。朝早くからお出かけくださいましたみなさん、ありがとうございました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	8月14日(水)	8月21日(水)
上越南消防署	0.033	0.036
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.040	0.040
頸南消防署	0.040	0.040
東頸消防署	0.043	0.040
高土分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.050	0.047